



秋本議員の再生エネ永田町報告



臨時国会向け最大限の再生エネ導入準備おこたらず

こんにちは、衆議院議員の秋本真利です。

先の通常国会で廃案となった洋上風力新法ですが、今秋に召集されるであろう臨時国会で成立させるべく鋭意準備を進めています。通常国会中にあった閣議決定や各党の党内手続きも改めて行うこととなります。臨時国会において、どの委員会で新法を審議するかは国会が決めることとなりますが、一般的に考えて経産委員会か国交委員会になることでしょう。捲土重来、必ず成立させるべくあらゆる努力を惜しまないつもりです。また、この新法が施行された時には洋上風力発電所の建設やメンテナンスに使用するための拠点となる港が必要になることは明白です。今の港のスペックでは、地耐力やバースの水深等が全然足りないので、しっかりと整備を進めることが肝要だと思っています。こうしたことを踏まえて、港湾局には事業者のヒアリングや予算確保の必要性等を検討させています。私自身も9月中旬頃にデンマークのエスピアウ港を視察する予定です。

風力発電とバイオマス発電の視察のため、秋田県の秋田市と由利本荘市を訪問しました。秋田県は北海道と青森県と並ぶ風力発電の有力地ですが、今回訪問したのは県南で進められているウィンドファームの建設予定地。50km²以上の土地に数十本の風車を建設し、発電所として70万～100万kW規模を目指しているとの説明でした。予定地をほぼ一望できる高台から海域を見たのですが、見渡す限りの水面に風車が立つことを想像すると圧倒的なスケール感に驚きを禁じ得ませんでした。やはり、資料での説明とは迫力が違います。また、地元の自治体関係者や漁業関係者とも面会する機会に恵まれたので、ウィンドファームに対する様々な思いに接することが出来ました。これだけの規模の発電所を建設するにあたっては、やはり地元との関係が非常に重要であると再認識することになりました。今後は多くの電源に入札制度が導入されることになると予想しますが、電源種や規模の他に導入初期と成熟期で考え方を変えなくてはならないと思っています。



バイオマスについては、土場で移動式チップパーでのチップ製造やトラックへの積み込みを見た後に、チップの搬入先である発電所を視察しました。この視察の目的は、バイオマス発電という電気的な部分や林業振興のほか、河川管理面での活用を検討するための目的もありました。国土交通省の管理する河川は全国に沢山あり、河川の中に繁茂する樹木は河川管理上定期的に伐採する必要があります。厳しい財政状況の中で伐採に充てられる予算には限りがあり、理想的な管理に資する伐採が行われているとは言えません。また、河川の中ではありますが自然に繁茂した樹木なのに、伐採された樹木は産業廃棄物として処理されています。この二つの

課題を同時にクリアする解決策が、バイオマス発電であると考えています。今回の視察では、解決に向けた大きなヒントを得た気がしています。

エネ庁では系統問題や再生エネの大量導入に向けた審議会が開催されています。これらの審議会の方向性を横目で見ながら、再生エネ議連の運営も考えていかねばなりません。いずれにせよ、秋の臨時国会に向けて視察やヒアリングを精力的に行って、再生エネの最大限の導入に向けた準備をしっかりとするつもりです。



バイオマスチップ積み込みを視察

(自民党再生可能エネルギー普及拡大議員連盟事務局長・秋本真利)